

PO21R026

2009年5月28日

不況の中、家計は節約ムードでも 女性の化粧品への投資意欲は継続

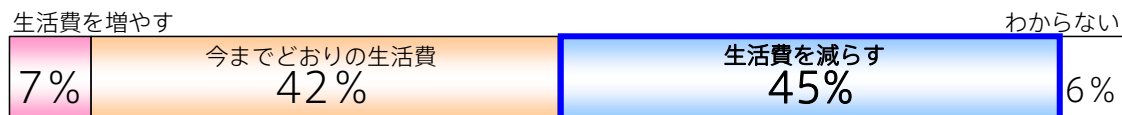
ポーラ・オルビスグループのポーラ文化研究所は、首都圏の女性1500人(15～64歳)を対象に化粧品などへの投資意欲に関する調査を行いました。

100年に一度といわれる不況の中、本調査では、女性の45%が生活費を減らす予定とされていることがわかりました(図表1)。

しかしながら、化粧品への出費予定をたずねると、「スキンケア化粧品」購入者の76%、「メイクアップ化粧品」購入者の73%が、今後使う「金額を増やす」、もしくは「今までどおりの金額」と回答し、「金額を減らす」という回答は2割程度にとどまりました(図表2)。「飲食店での食事」「ファッション」といった事がらとくらべると、投資意欲を継続して持っている人が多いことがわかります。

女性の多くが化粧品への投資意欲を継続していることは、化粧品は女性にとっては必須のアイテムとして日常生活に根付いており、女性にとって「きれいになりたい」「美しくありたい」というのは永遠のテーマのようであり、不況の中でも現状のスキンケア・メイクアップのクオリティを上げるまたは維持することにプライオリティを置いていると推察されます。

図表1 今後の生活費の増減予定(基数:対象者全員1500人)



図表2 今後の出費の増減予定_各事がら別(各基数:最近半年間で該当の事がらにお金を使った人)

(N)	金額					金額は「増やす」または「今までどおり」
	金額を増やす	今までどおりの金額	金額を減らす	お金を使わない	わからない	
スキンケア化粧品 (1323)	8	68	21	0.3	2	76
メイクアップ化粧品 (1290)	7	66	25	1	2	73
自分の習い事 (641)	11	61	19	7	3	72
運動(ジム、ヨガなど) (552)	9	62	20	6	4	71
美容院 (1264)	7	64	25	2	3	71
自宅での食事 (1359)	10	58	29	0.3	3	68
旅行・レジャー (1149)	16	49	30	2	4	65
健康食品 (975)	7	57	28	5	3	64
携帯電話 (1292)	2	61	33	1	3	63
自宅の車 (820)	4	59	31	3	3	63
エステティックサロン (366)	7	55	25	9	5	62
ファッション (1341)	9	45	42	1	3	54
飲食店での食事 (1389)	6	42	49	1	3	48

化粧品への投資は減らしたくない女性たち

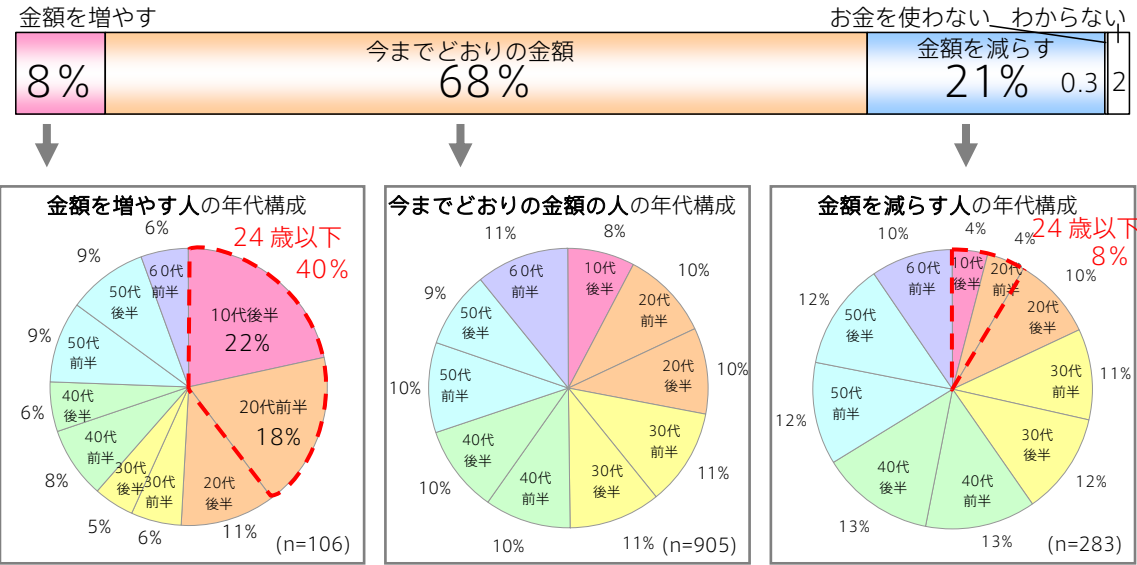
「スキンケア化粧品」に今後使う金額を増やす人の年代構成をみると、24歳以下の若い年代が40%と多く、金額を減らす人では8%と少なくなっています(図表3)。「メイクアップ化粧品」においても、金額を増やす人は24歳以下が47%と半数近くにおよんでいます(図表4)。

高校生や大学生といった学生が約6割を占める24歳以下の年代は、化粧品の投資金額が年齢を重ねた年代より低いこともあり、大学生や社会人になって、今までより金額を増やす人も多くいるようです。また、将来の肌のためにもスキンケアにお金をかけたいといった声もあがっています。

一方、年齢を重ねた年代においても、エイジングや現在の年齢を意識してスキンケア・メイクアップにお金をかけたい、減らしたくないといった意見もでてきます。(参考:次頁自由回答)。

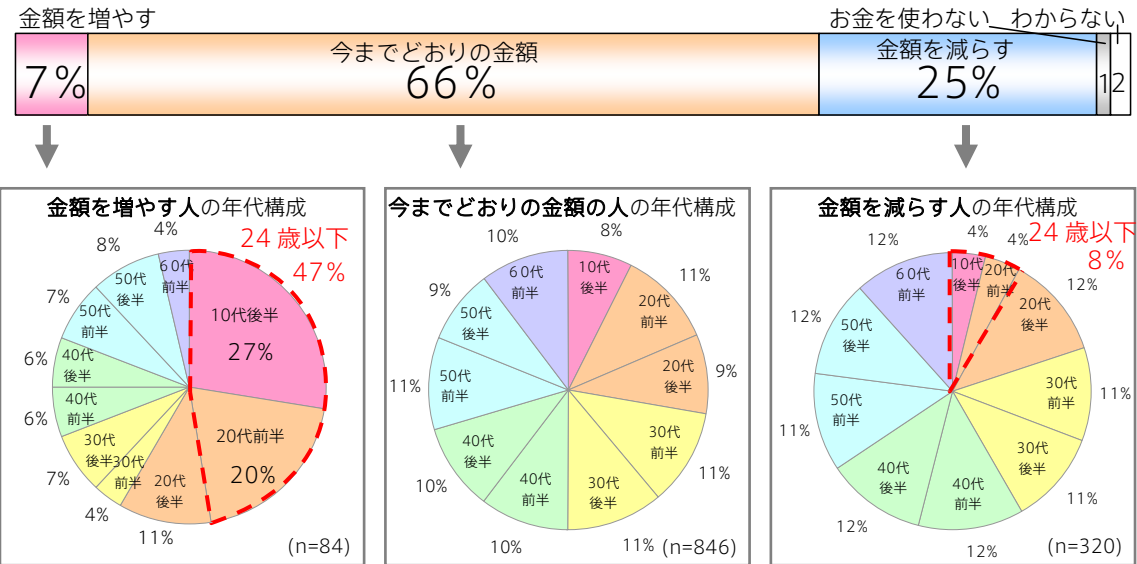
図表3 今後の「スキンケア化粧品」出費の増減予定と出費増減予定別にみる年代構成

(基数：最近半年間のスキンケア化粧品購入者 1323人)



図表4 今後の「メイクアップ化粧品」出費の増減予定と出費増減予定別にみる年代構成

(基数：最近半年間のメイクアップ化粧品購入者 1290人)



今後の化粧品への出費増減の理由（自由回答抜粋）

「スキンケア化粧品」

金額を増やす理由

「スキンケアは今まで怠ってきたので、大学生になるのを機にしっかりお金をかけたい」 18歳 大学生
 「今後、年齢とともに肌が衰えていくと思うので、今からお金をかけてケアしていきたい」 23歳 会社員
 「素肌をきれいにするためにはスキンケアにも多少のぜいたくが必要と思う」 26歳 パート・アルバイト
 「アンチエイジングにもっとスキンケア商品を利用したい」 45歳 専業主婦
 「少し高くてもちゃんと効果ができれば、将来的には経済的だと思うから」 50歳 自営業
 「肌にとってスキンケアは大事なので増やしたい」 55歳 専業主婦

金額を今までどおりにする理由

「今までと同じような商品を買いたいから」 16歳 高校生
 「本音は減らしたいけれど年齢から考えてもこれ以上減らせない」 29歳 専業主婦
 「身だしなみのお金は減らしたくない」 34歳 会社員
 「激安化粧品を使うと肌に良くない気がするので今の物より金額を落としたい」 42歳 専業主婦
 「日常的に消費するものだから変えようがない」 50歳 専業主婦
 「現在使用している化粧品で十分だと思う」 61歳 専業主婦

金額を減らす理由

「不景気なので自由に使えるお金が減った」 29歳 専業主婦
 「収入が減ったので、高価なものばかりでなく、安くてもいい商品をさがしてみる」 43歳 会社員

「メイクアップ化粧品」

金額を増やす理由

「大学生になり、メイクを始めるので」 18歳 大学生
 「毎日メイクをして会社に行くので、仕事が終わるまで崩れにくいメイクをしたい」 23歳 会社員
 「よい化粧品で肌に負担をかけないようにしたい」 30歳 専業主婦
 「美しさを保つ為に、メイクアップ化粧品の種類を増やしていきたい」 41歳 パート・アルバイト
 「これから肌がどんどん衰えるので化粧で防ぎたい」 55歳 専業主婦
 「お金ばかりだと思わないが、年齢にあった化粧品が必要だと思う」 61歳 パート・アルバイト

金額を今までどおりにする理由

「メイクのお金は減らしたくないが、節約したいのでせめて今のまま維持」 20歳 大学生
 「肌に合っているのだから同じ商品を買う」 28歳 自営業
 「化粧はしたい。減らす必要があるほど無駄遣いしていると感じない」 38歳 会社員
 「今の金額が最低限必要な経費と思っており、これ以上増やすことは家計上できないが、これ以下に抑えると女性として自信をなくしそうだから」 41歳 パート・アルバイト
 「今まであまりお金は掛けていないがこれで充分だと思うから」 64歳 無職

金額を減らす理由

「不況のあおりを受けているからもう少し安いものに変えていこうと思っている」 31歳 専業主婦
 「他に節約できる物があまり無く、化粧の回数が減っているから」 54歳 専業主婦

※本リリース図表中の数値は、数値の表示未満の四捨五入処理により合計が100%にならない場合があります

【調査実施概要】

調査名：女性の化粧行動・意識に関する実態調査～スキンケア・メイク篇 2009～

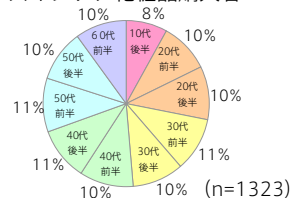
調査時期：2009年4月 調査方法：インターネット調査

調査対象：首都圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）に居住する15～64歳の女性1500人

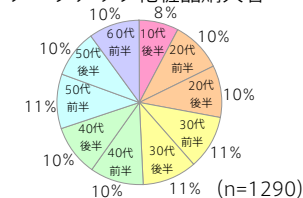
（15～19歳、20～24歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳、40～44歳、45～49歳、50～54歳、55～59歳、60～64歳：各150人）※中学生を除く

【参考：最近半年間のスキンケア・メイクアップ化粧品購入者の年代構成】

スキンケア化粧品購入者



メイクアップ化粧品購入者



ポーラ文化研究所は、1970年代より現代女性の美意識や化粧行動などについて調査研究を行い、CSR活動の一環として研究成果を広く社会へ発信しています。このような調査研究の結果をもとに、今年創業80周年を迎えるポーラは、現代女性のニーズや意識に合ったサービスを提供してまいります

[ホームページ](#)でポーラ文化研究所が行った調査の詳細レポートをご覧ください。

<http://www.po-holdings.co.jp/csr/culture/bunken/report>